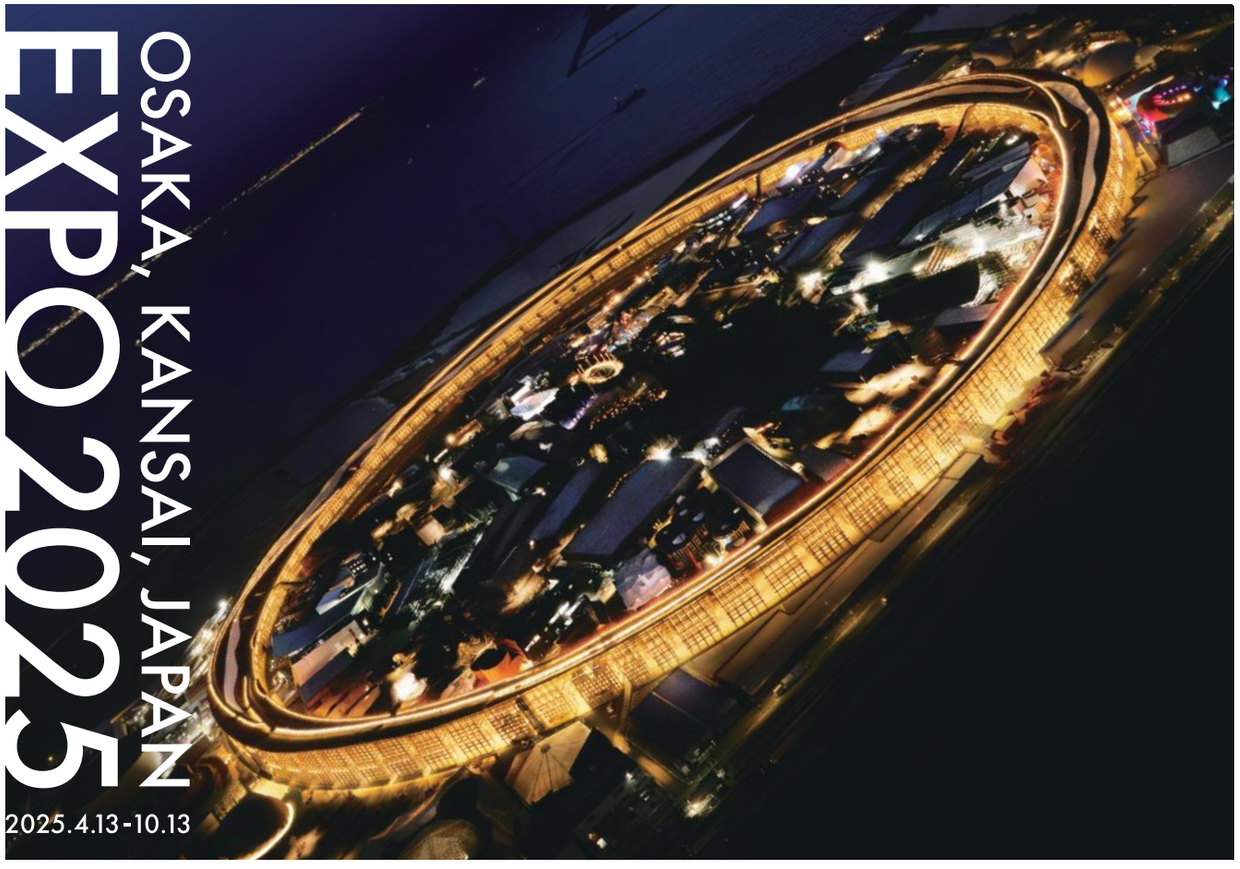
朝日ウッドテックの
非住宅シリーズ「メッセージ」について
詳しくはホームページをご覧ください

WOODTEC

PUBLIC SERIES
MESSAGE

EXPO2025大阪・関西万博で
「非住宅向けフローリングシリーズ」が
採用されたパビリオンのご案内



提供:公益社団法人２０２５年日本国際博覧会協会

WOODTEC

01　提供:公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

いのち輝く、未来社会のデザイン。

大阪・関西万博にはたくさんの木が使われています。
今回、朝日ウッドテックのフローリングが
6つのパビリオンで採用されました。
ぜひ、ご来場の際にご覧ください。

採用パビリオン一覧

①大阪ヘルスケアパビリオン
P.9

②ドイツパビリオン
P.11

③イタリアパビリオン
P.13

④オーストリアパビリオン
P.15

No Image

⑤スペインパビリオン

No Image

⑥アイルランドパビリオン

スペインパビリオンとアイルランドパビリオンについては、施工写真の撮影が叶っておらず、本冊子には写真の掲載がございません。あらかじめご了承ください。

提供：公益社団法人２０２５年日本国際博覧会協会

建築家／2025年日本国際博覧会会場デザインプロデューサー

藤本壮介

Sou Fujimoto

1971年 北海道生まれ。東京大学工学部建築学科卒業後、2000年に藤本壮介建築設計事務所を設立。2014年フランス・モンペリエ国際設計競技最優秀賞（ラルブル・ブラン）、2015、2017、2018年にもヨーロッパ各国の国際設計競技で最優秀賞を受賞。国内では2024年に「（仮称）国際センター駅北地区複合施設基本設計業務委託」の基本設計者に特定。現在は「2025年大阪・関西万博」の会場デザインプロデューサーを務める。

2025年日本国際博覧会会場デザインプロデューサー

藤本壮介

リングのデザインから見えてくる建築の原点、使命、そして未来。

大阪・関西万博の会場デザインプロデューサーをつとめ「大屋根リング」の設計監修を手がけた、藤本壮介氏。今、日本でもっとも注目される世界的建築家の藤本氏にリングに込めた想いやメッセージ、万博が果たす役割、そして建築の未来について語っていただきました。

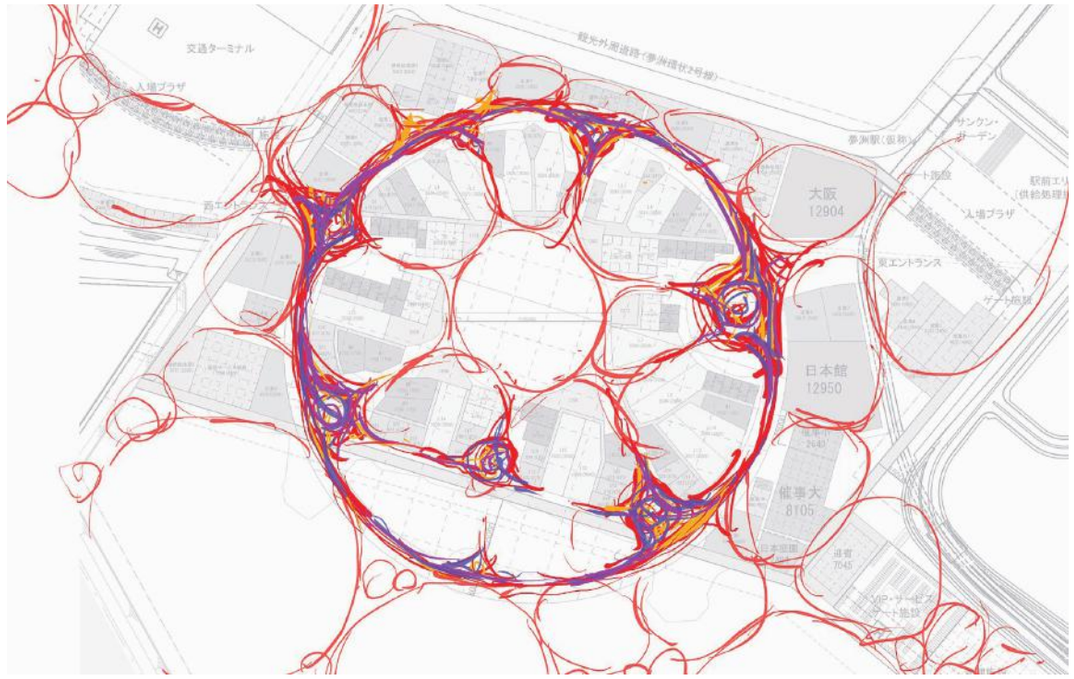
分断を越えて、「ひとつの円」でつなぐ

万博の会場デザインプロデューサーに指名いただいて、まず向き合ったのが「万博の意義と価値」でした。コロナ禍がはじまった2020年の春で、「分断」と言うワードが顕在化しはじめたころです。2025年の万博開催時にはコロナの時代、分断の時代を経て世界のたくさんの国がひとつの場所に集まり、ともに未来や希望につながる可能性を感じる時代になっているべきだと感じました。「大屋根リング」には、多様な人種、価値観を持つ世界の国がつながり「ひとつの円」になるという強いメッセージが込められています。

就任から数カ月後、テーマ事業プロデューサーの皆さんとはじめて訪れた夢洲の会場は何もない真っさらな土地でした。すばらしい晴天の中見上げた空の大きさに感動して、「この空には何もかなわないな」と皆が共感しました。リングの上に上がった時に、その美しい空が主役になって丸く切り取られて迎えてくれるイメージが浮かんできました。リングに込めたメッセージとつながって、すばらしい会場計画になると確信した瞬間でした。

眼下にはたくさんの世界の景色があり、地上から天をあおぐと丸い空がきれいに現れる。ひとつの空をみんなで共有して地球を守っていくメッセージと、あらゆる多様性がつながってともに未来を考える象徴的な体験になると感じました。

持続可能な社会を形成する自然の循環、森林の循環から生み出される木材の価値を伝えることも大切なテーマです。日本は森林が豊かで何より木造建築の技術がある。世界一の伝統技術と最新の技術を組み合わせ、これからの大規模木造をリードする存在だと発信するこの上ない機会にもなります。建築自体は主張しすぎず、人と人、人と自然、人と空間が交差するプラットフォームとして、会場内の世界各国を俯瞰する感覚で設計しています。



「多様性がひとつにつながる場」をイメージした、「大屋根リング」構想初期のスケッチ　©Sou Fujimoto Architects

提供：公益社団法人２０２５年日本国際博覧会協会

リングの床は世界の交流場

リングは屋根であると同時に地上の歩行者を守る構造にもなっています。そして、会場の内外を見渡し循環する「床」でもあります。建築は壁や屋根で空間を囲い取りますが、人が常に触れているのは床です。床が場を作り人々の活動が生まれ、壁や屋根がなくても「場」は作ることができる。大屋根リング屋上の「床」にも壁や屋根はないですが、人々が行きかう世界の交流場としての役割を果たします。リングの床には国産の木材を使い、直径約600メートル、円の全周は約2キロと世界でも類をみない円環状の床になりました。

大きな円形の床が囲む中心には「静けさの森」があります。森の木々を招き入れて木造のリングとの自然の循環を体感してもらえるというアイデアです。木々は公園や緑地帯で密集状態など植生環境に恵まれていなかったものを移植しています。スペースが空けば残された木々は健康になり、招いた木々は環境の良い森で元気に育つ。過去と未来の森がともに再生する、そんな森のつくりかたをしています。日本の森林資源と木の文化を活かし、都市空間に新しい価値観を提示したいという想いを込めて。この会場は、自然と人と空間をやさしくつなぐ“対話の場”だと感じています。

建築は「未来への手紙」記憶を受け継ぐ器

建築とは、そこに生まれる時間や記憶を受け継ぐ「未来への手紙」のようなものです。完成した瞬間がゴールではなくて、そこからが始まり。人々の営みや記憶によって育てられていき、ずっと誰かに何かを伝え続けるべき存在だと思っています。大屋根リングも万博のためだけに設計したのではなく、「万博のあとに何が残るか」「ここから何が始まるか」という未来を意識してデザインしました。いろいろな議論がありますが、今の場所で“21世紀初頭の現時代を次世代に伝える空間”として育っていくことを願っています。

いつの間にか風景に溶け込み、人々の人生に寄り添う存在となる。記憶の層が積み重なることで、空間は時間をまとって深まっていく。それこそが、建築が持つ「未来への手紙」としての役割だと信じています。

大阪ヘルスケアパビリオン
Nest for Reborn

「人」は生まれ変われる

地元大阪がREBORNをテーマに、未来に実現を目指すヘルスケアや都市生活の体験や、iPS細胞をテーマにした再生医療の可能性の発信、屋外ステージでのイベントやなどさまざま情報を発信。

採用箇所：2Fホール
2F「ミライの自分」エリア通路
採用商品：☑メッセージハード 挽き板
ハードメイプル スタンダード 215㎡

提供：(公社)大阪パビリオン

ドイツパビリオン
わ!ドイツ

循環経済「サーキュラーエコノミー」を体感

「わ!」には、循環の「環（わ）」、調和の「和（わ）」、感嘆の「わ!」の3つの意味を込めています。パビリオン自体が循環型・持続可能な建築の出展作品となっており、建築・景観・展示を一体化し、他ではできない体験を提供します。その体験を通し、循環型未来へと続く道を歩んでいただけます。

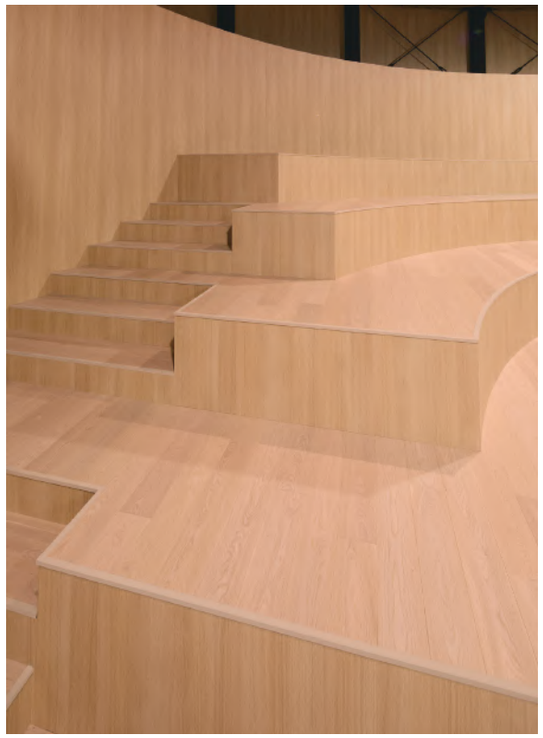
採用箇所：1Fレストラン、2F展示スペース
採用商品：☑メッセージオーダー 挽き板
ハードメイプル スタンダード 330㎡
ブラックチェリー スタンダード 30㎡
ハードメイプル ラスティック 30㎡

イタリアパビリオン
also hosting the Holy See

芸術は生命を再生する

ルネサンスをイメージした理想都市をテーマに、劇場やポルティコ、広場、庭園が配置され、「テクネ」（美、創造性、職人技）を象徴します。マリオ・クチネッラ・アーキテクツの設計で、「アートは人生を再生する」を掲げ、円形劇場ではライブパフォーマンスを開催。また、グランド・リングからは、ファルネーゼ・アトラスやティントレット、カラヴァッジョの名作が望める驚異のギャラリーとなっています。

採用箇所：シアタールーム（階段兼ベンチ、ダンスフロア）
採用商品：☑ メッセージオーダー 挽き板
オーク スタンダード特注色　70㎡
☑ メッセージハード 挽き板
オーク / ホワイト　90㎡

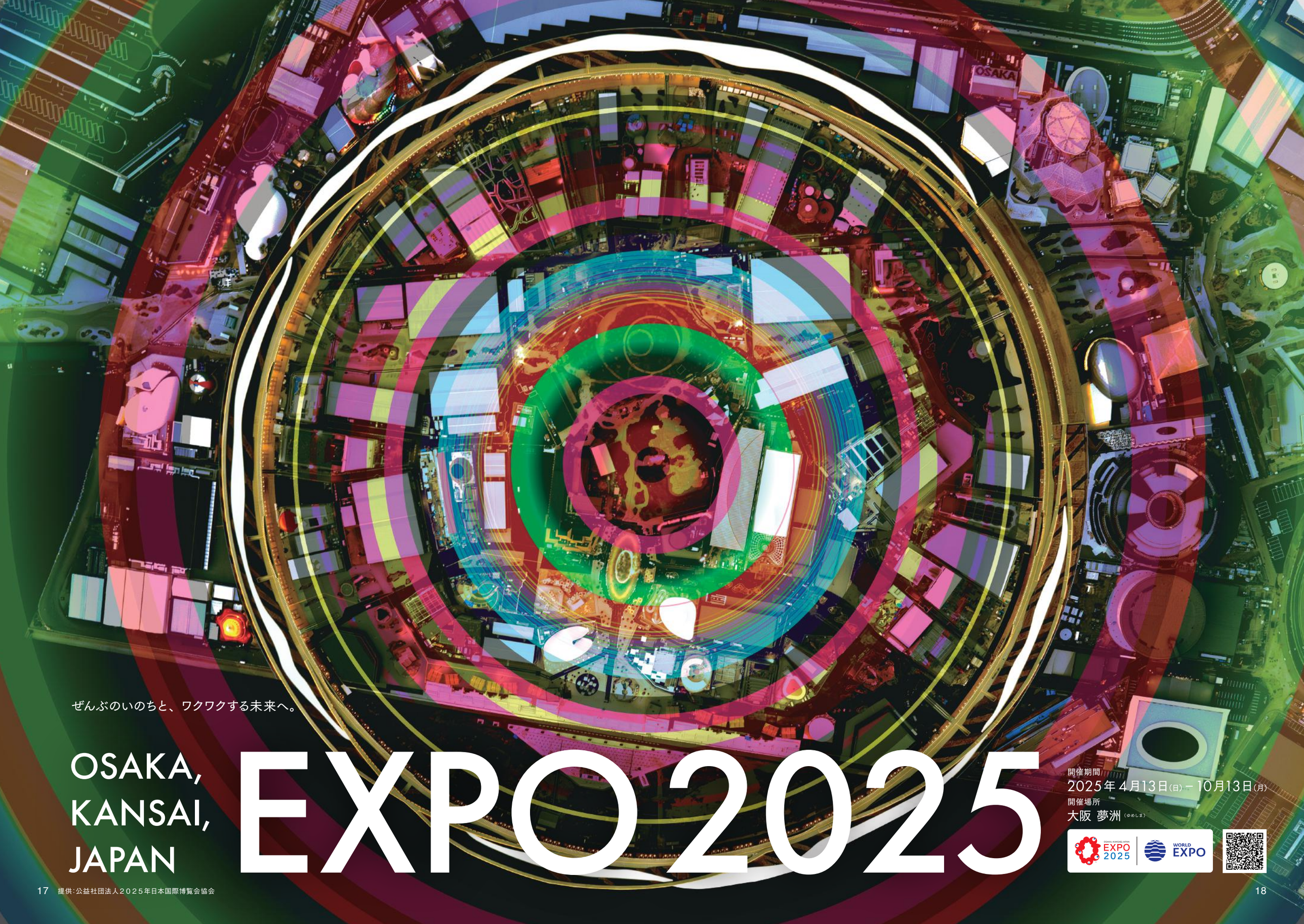


オーストリアパビリオン
オーストリア：未来を作曲

未来を切り拓く螺旋状のオブジェ

オーストリアパビリオンは、大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を音楽で表現します。壮大な螺旋状オブジェは楽譜をモチーフにし、多様性と創造性を体験できます。パビリオン内では、過去から未来、既知から未知に至る現代のオーストリアが紹介され、伝統菓子も楽しむことができます。

採用箇所：3Fレストラン
採用商品：☑ メッセージオーダー ヘリンボーン挽き板
ブラックウォルナット 特注サイズ　110㎡



ぜんぶのいのちと、ワクワクする未来へ。

OSAKA, KANSAI, JAPAN EXPO 2025

開催期間
2025年4月13日(日) – 10月13日(月)
開催場所
大阪 夢洲(ゆめしま)

提供:公益社団法人2025年日本国際博覧会協会